

ポットホールの丘

広場のような気軽に立ち寄れるトイレ

建築と自然が生み出す形態がゆるやかに連続するような場所
既存の風景を壊さないゆるやかな輪郭線をもつ建築

靴を脱ぎ、床の汚れを少なくすることできれいで楽しいトイレ
女性ならではの配慮を取り入れたやさしいトイレ

ここに訪れる人たちが物陰に過ごせる「ポットホールの丘」

<計画建物①>

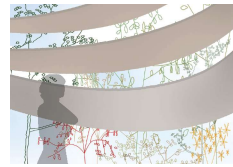
<計画建物②>

<計画建物②>

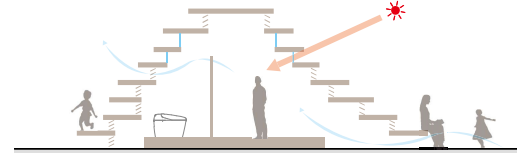


<計画建物①>Site Plan S=1:200

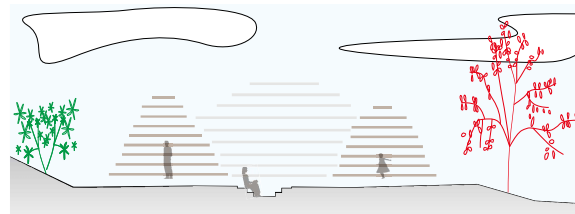
<計画建物②>Site Plan S=1:200



森の中の木質空間
木のルーバーをはじめ、室内にも随所に広島県産の木材を使い、森の中の木質空間をつくることで、心地よい森の中の空間となる。



<計画建物②>Section S=1:200



<計画建物②>Elevation S=1:200

1 ポットホールが生み出すアクティビティ 地域の自然が生む風景

三倉岳の脈を流れる木野川には、弥栄峽や蛇喰嶺などの花崗岩の流水による浸食によってポットホールができ、この地域ならではの景色が広がる。そしてその自然が生み出した起伏が、人々のコミュニティ空間として機能している。私たちの提案は自然が生み出す形態を、人が集まる仕組と捉えることで、この場所に新しいトイレの在り方を提案します。私たちの提案では、その形状をルーバーへ変換することで、地域の自然が生み出す文脈と密接に関わる建築の提案をしたいと考えました。



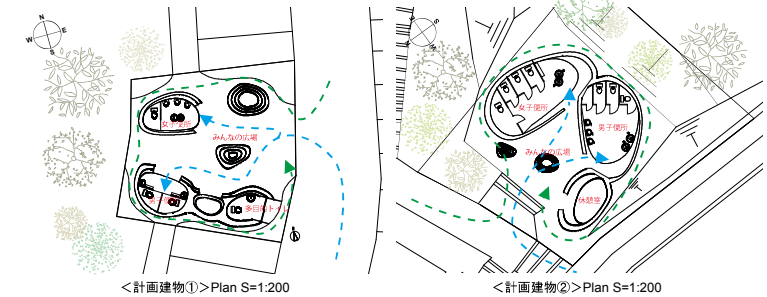
2 女性目線で考える清潔で安全なトイレの計画 靴を脱いで上がることで清潔なトイレ環境を維持する

靴を脱いでトイレを利用することで、週に一度の清掃でも十分に清潔なトイレを保つことができる計画としている。トイレ棟の隣に位置する休憩室は、木のルーバーで構成されたこじんまりとした囲いの中にあるだけのシンプルな空間構成である。小上がり部分の面積を広くすることによって、単に腰掛けるだけではなく寝転がってくつろいだり、赤ちゃんのオムツ替え、授乳などにも対応した空間になることをイメージして計画した。

トイレ棟の上部と下部にはガラリを設け、その他にはガラスを組み込むことによって、虫が入りづらく、かつ自然と空気が通る明るい空間を目指した。また、トイレの各個室に面したルーバー部分には壁を設け、外部からの視線を遮断し、プライバシーを確保している。ヒノキでできたルーバーと床により、建物に入るとヒノキが持つ特有の香りに包まれる。また、ヒノキには芳香効果の他に消臭効果もあり、匂いが気になりがちな公衆トイレのイメージを払拭するトイレ空間となる。

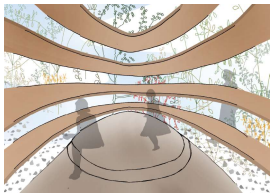
<異なる目的を持つ人たちが交じりあう動線計画>

トイレに行く人動線 → 遊ぶ人動線 →



3 人々の憩い（コミュニケーション）と癒しの空間 ルーバーに腰を掛けてひとやすみできる癒しの空間

この計画中でのコミュニケーションの場として休憩室、くぼみ、トイレの外側のベンチの3つが挙げられる。ゆるやかな曲線で囲まれた広すぎない休憩室では、木のルーバーが暖かい印象を与え、そこで休む人達をリラックスさせる。各トイレ棟の中心に位置するくぼみは、ゆがんだ円形の形をしており座った人は自然と向かい合う形になることで、コミュニケーションを誘発する。トイレ棟に使われるルーバーはベンチとして利用でき、人を待たせたり、休憩することができる。この場で偶然に居合わせた人達の間で自然と交流が生まれる。敷地自体にコミュニケーションが生まれる工夫をちりばめることで、トイレとしての役割を果たすだけではなくこの場に訪れる様々な人達のより豊かな活動を誘引する。



4 木のルーバーによりやわらかな空間をつくる ポットホールを木のルーバーで表現する

流水により浸食された花崗岩の風景を流線的な木のルーバーで表現する。水平に積層された木のルーバーは、人々のアイレベルからは透明のように見え、森の中に溶け込んで見えるだろう。そして流線的な形態は、森の中の空気の流れと自然に調和し、心地よい風を室内に取り入れる。また、木のルーバーは、直射日光を遮り、ルーバーの間から淡い光が室内に差し込む。このように、自然の力を利用して採光・換気を十分に取り入れることで、運用コストも抑えることができる。

